

社会福祉法人はぐくみ会 2020 年度事業報告

I はじめに

2020 年度におきましては、やはり新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた 1 年となりました。国が緊急事態宣言を出された 5 月頃には、県内の感染状況も鑑みて自粛要請をかけ在宅支援を行ったりと通われる利用者、その家族にとってもストレスを感じたり負担が増えたりとしんどい時期もあったかと思えます。そのような中ではありますが、改めて当事業所のような障害福祉サービス事業所は、障害のある人たちやその家族にとって欠かせないものであることを確認することができ、職員にとっては自分たちの仕事の意味を確認する機会にもなったのかなと感じております。

そして、当法人としてここ数年継続して取り組んでいる将来計画の取り組みや人材育成といったことにも、継続して取り組んでまいりました。ここにも新型コロナウイルス感染症の影響があったとは思いますが、出来る限りのことを進めてまいりました。

今後、グループホームの計画も具体化が進むと考えています。通われる利用者の加齢とともにニーズの変化も感じております。また、その家族の高齢化により自宅での生活の負担も増してきています。くわえて、地域に目を向けた時に養護学校卒業後の進路先として資源不足が大きな課題となっています。そのような変化やニーズに応えるべく、当法人としても、今まさに将来に向けて議論し検討していく時期にあるのではないのでしょうか。

2021 年度も課題が山積しております。しっかりと振り返り、また、2021 年度に繋げてまいりたいと思います。どうか、皆様、忌憚のないご意見をいただけますよう宜しくお願いいたします。

～当法人の理念～

障害者・家族・関係者の願いに基づき、障害の種別や程度にかかわらず、障害者が社会の一員としていきいきと生きるための労働と生活の場を保障し、併せて地域社会に根ざした社会的自立と福祉の向上を図る。

II 障害福祉サービス事業（生活介護・就労継続支援 B 型）

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 仲間、一人ひとりの課題、ニーズに合わせた取組みを考える（継続）	年間	<p>（1）仲間一人ひとりについて、職員は常に仲間への理解を深め、思いを汲み取りながら、毎日の取組みや活動を考えていく。また、仲間一人ひとりが毎日に満足しているかどうかを聞いたり、様子や表情などから感じ取っていく。理解を深めていくために、職員会議に参加しない職員との情報共有については丁寧におこなっていく。また、記録の仕方についても職員間で統一し、個人日誌を充実させる。あと、日々の個人日誌は担当職員が確認をし、次の日の取組みに繋げていけるようにしていく。</p>	<p>（1）今年度は新型コロナウイルス感染の影響で、約1ヶ月半、通所自粛、また在宅支援というかたちになりました。その中でも仲間の様子を気にかけてながら支援が出来たことは良かったです。</p> <p>通所再開となって以降、感染対策として日中の活動場所が2つに分かれておこなうことになり、職員は別の場所で活動する仲間の様子が把握出来ない状況となりました。また、これまでもパート職員への情報共有もうまくいかない点もあったため、<u>今後の改善策として仲間の様子を引き継ぐファイルを活用します。</u></p> <p><u>毎日、夕方の時間（10分）にその日の仲間の様子を共有し、それを記録して次の日の朝にパート職員が確認出来るようにおこなっていきます。</u>短い時間での情報共有でも、毎日おこなうことで、仲間への理解は深まっていくと思います。</p>	<p>（1）今年度は、新型コロナウイルス感染の影響から作業所を2か所に分け、過ごしてきた。そのことにより、仲間の様子が把握しづらくなったが、夕方の時間に情報共有の場を設けたことやパート職員とも情報共有するために引継ぎファイルを作り活用できたことは、仲間への理解や日々の取組みに繋げるきっかけとなった。しかし、仲間の満足度や達成感というところについては、もっと仲間の様子を見て感じ取り、取組みや活動の中身を職員で論議していかなければと思う。</p> <p>仲間への理解、思いの汲み取りについては今後も常にどのようなようにすればもっと深められるかを職員全体で取組んでいく。</p> <p>個人日誌については、記入漏れはチェック表を活用したことでなくなってきたが、記録の内容に</p>

		<p>(2) 個別支援計画の内容をしっかりと論議していき、職員全体で仲間の支援について共通認識し、支援のばらつきがないように取組んでいく。また、支援の内容が仲間に合ったものとなっているか意識をし、取組みをすすめていくために、定期的に支援計画を確認するため会議をおこなう。(年間の会議日程の設定、個人日誌に半年ごとに目標などファイルし意識付けをしていく) 定期的な確認の会議以外でも、気になること、また、懇談後の報告を職員で話ができる時間の確保にも努める。</p>	<p>個人日誌記録について、仲間一人ひとりに合わせた記録用紙に変更したことで、仲間の様子について意識も高まったと思います。しかし、記入漏れもあるため、<u>今後は日誌記録チェック表を作り、職員全員がその表を見て記録漏れがないか確認をします。記録する職員によって内容に温度差があるため、どういうところをポイントにして記録するかを今後、しっかりとすり合わせていく必要があります。</u></p> <p>(2)支援計画を意識できるように個人日誌にファイルしているが、支援のばらつきがまだまだあることから、ファイルが活用できていないと感じます。どういう場面で、どういうばらつきがあるのか、ということを振り返り、次に繋げていく作業が必要です。</p> <p>定期的な確認の会議は、定着してきており出来ているがそれ以外で確認する方法(個人日誌へのファイルを含め)を、今一度考える必要があります。</p> <p>今年度は、マンションの1部屋を借りて活動をしている分、日中の職員の移動や送迎など時間にゆとりを持って</p>	<p>については中間総括でも話していたように、仲間一人ひとりについてどのようなところをポイントにして記録をするのか、また、実践したことを具体的に記録していくことができていない。担当職員を中心に記録のポイントを絞り、意識して日誌に記録できるようにしていきたいと思う。</p> <p>(2)個別支援計画の内容がいつでも確認出来るようにと、個人日誌にファイリングしているが、活用できていない。支援のばらつきの原因のひとつとなっていたと感じる。また、支援の変更があった際にそのことを意識出来ていないということも反省点としてあった。</p> <p>来年度は、ファイリングはおこなわず、別の方法で仲間の支援が意識できるような仕組みを考える。</p>
--	--	---	---	--

		<p>(3) 職員は、常に仲間や家族の願いを汲み取り、今必要な支援、そして、将来を見据えて必要な支援は何かと積極的に論議をしていく。そのために、職員は、今まで以上に仲間や家族の方との関係を深め、一瞬の様子や話から思いを汲み取れるよう努力していく。また、当法人が取組んでいる、将来計画についても仲間や家族の方の願いが実現できるように職員は必要に応じて学習会や研修の機会を設ける。</p> <p>(4) 実践において、発達保障の視点を大切に、仲間が働くことや生活の幅をひろげる、豊かにするといったことを職員で論議し深めていく。(8月に</p>	<p>行動しないと、仲間への支援にも影響してくるので、年度後半についてもそのあたりの意識が薄れないようにしていきます。</p> <p>(3)今年度、前半の個別支援計画見直しに伴う懇談は、新型コロナウイルス感染の影響で書面でのやり取りとなっており、丁寧な懇談が出来ませんでした。そういった中でも、在宅支援、連絡帳、送迎時などで話す機会を大事に出来たことはよかったですと思います。</p> <p>将来計画実現委員会においても、部会や全体会が制限されるため、家族の方の色々な意見等を聞く機会が少なくなってしまうが、職員は、常に思い、願いを汲み取るんだという意識を忘れず、その都度、丁寧にやり取りをしていきます。</p> <p>将来計画に繋がる内容を職員の学習会として積極的におこなっていきます。</p> <p>(4)会議の場で、生活の幅を拓ける、豊かにするという視点を持ち、話し合うことは増えてはきているかと思いません。職員の中には、もっとそのことに</p>	<p>(3)年度後半は個別支援計画の見直しに伴う懇談が出来たことで、家族の方の思いを直接聞き取れたことは良かった。より一層、願いを汲み取っていくために、職員は仲間や家族の方の言葉の奥に込められていることを感じ取っていけるようにしていかなければと思う。</p> <p>将来計画に向けて、職員で学習する機会を設けて来たが定期的には出来ていなかったと思う。来年度は具体的に日程を設定し、職員で学習していけるように。</p> <p>(4)ここ数年、このテーマについては職員で所内研修を行ってきた。仲間の話しをする時に、生活の幅を拓ける、豊かにするという視点</p>
--	--	---	--	--

<p>2 就労支援事業の収支について、収入増を目指す (継続)</p>	<p>年 間</p>	<p>所内研修をおこなう) 所内研修については、より一層このテーマについて研修が出来るようにやり方の工夫もしていく。</p> <p>(1) 毎月の取組みとして、グループ分けをし、仲間一人ひとりに合わせた内容で、一ヶ月の頑張りを伝え合い、作業への期待や意欲に繋がるよう、お給料の話しをしていく。また、より一層仲間にとって伝わりやすい方法も模索しながら取組んでいき、その都度、振り返りもおこなっていく。</p> <p>(2) 職員は作業ごとに年間計画をたて、やりきる意識を持ち取組んでいく。また、年間の収入見込みをふまえ、毎月の収支を確認し、意識しながら取組むことと、2ヶ月ごとに計画の進み具合を確認し、状況に応じて修正と対応策を検討する。</p> <p>(3) 今、取組んでいる作業について、収入増につながる工夫をする。ま</p>	<p>ついて深めたいという思いを持っており、そのために自分たちで、より論議を深めていく機会をつくりたいと思います。予定では8月に研修とありましたが、別の内容の研修をおこなったため、発達保障についての所内研修は年度後半におこなう予定です。</p> <p>(1~3)今年度は、新型コロナウイルス感染の影響を大きく受け(下請け作業が止まる、出店等は中止、リサイクル回収単価減、後援会行事の中止など)仲間のお給料を減らさないといけない状況になりました。</p> <p>お給料の話し合いの際に、仲間にもそのことを伝え、それでも頑張っていこうという話も伝えました。</p> <p>お楽しみ昼食についても買い物をお粛するということが出来ない月があり、お給料をもらった後の楽しみが減ってしまいました。</p> <p>また、収入減という状況がいつまで続くかというなかで、少しでも収入に繋がることを考え、新たな下請け、自主製品所前販売を仲間と一緒に開始出</p>	<p>を持ち、話しをする機会が徐々に増えてきたと感じる。</p> <p>今回は、仲間一人ひとりについて、より具体的にどのようなことを実践していくかを論議した。来年度も引き続き、仲間一人ひとりについて論議していきたいと思う。</p> <p>(1)新型コロナウイルス感染の影響で、多数の方との接触を避けることから、取組み内容に制限がかかってしまったり、色々な作業においても収入が減った一年であった。そのようなことからお給料も減額することとなった。仲間にもそのことを伝え、それでもみんな頑張っていこうと仲間一人ひとりの達成感に繋げられるように工夫しながら、仲間と一緒に取組めたことは良かった。</p> <p>(2)(3)新型コロナウイルス感染の影響を受け、大幅な減収となった。</p> <p>毎月の仲間のお給料も減額しなければならぬ状況となった。</p>
---	------------	--	---	--

<p>3 職員の資質の向上 (継続)</p>	<p>年 間</p>	<p>た、新たに収入増につながるものはないかと、情報収集もおこない積極的に意見を出し合い検討していく。</p> <p>(4) 収支だけにとらわれるのではなく、職員は仲間が働くということや、仲間のお給料についての論議も深めていく。(会議日程 11 月)</p> <p>(1) 職員の資質向上のため、年間計画をたて、研修に参加していく。また、支援に必要となってくる様々な研修についても、その都度、積極的に参加していく。職員会議では研修報告をおこない、日々の実践につなげていけるよう論議を深めていく。(研修報告より、テーマを取り上げ、所内研修をおこな</p>	<p>来たことは良かったと思います。</p> <p>お給料については、2ヶ月に1回、収支の状況をみて、支給するとしており、年度後半についてもしっかりと収支を意識しながら検討していきます。</p> <p>(4) これまでも、仲間が働くとはと論議を重ねてこれたことは良かったです。今回、お給料が減る中でも日々、がんばっている仲間の姿をみて、仲間が働くということについて、より論議を深めていきたいと思います。(年度、後半に所内研修)</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染の影響もありながらではありますが、年間計画に沿って研修参加が来ています。また、職員用の回覧の中から自主的に研修参加の申し込みを願い出てきた職員がいたことは大変良かったと思います。日々、業務に追われているとは思いますが、職員自身が学ぶという意識</p>	<p>お給料については2ヶ月に1度、収支の状況をみて検討をしてきた。また、お給料を元の額に戻すために、新たな下請け作業や出店が無くなった分、毎月2回、作業所前で自主製品の販売、物品販売の売り上げ増につなげる策などを行った。その取組みも仲間と共に進められたことは良かった。</p> <p>(4) このことについてはここ数年、職員で論議を続けてきた。障がい重い人たちが働くということ、また、はぐくみの仲間一人ひとりについて、働くとは…と職員で論議する機会がもてたことは良かった。来年度も引き続き論議を重ねていく。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染の影響でZOOM研修となることもあったが、職員それぞれが研修に参加出来たことは良かった。また、自主的に研修参加を申し込んできた職員もいた。また、事業所においては初めてのことであったが、医療的ケアが出来るように</p>
----------------------------	------------	--	---	---

		<p>う) また、研修報告と資料についてはファイリングし、いつでも閲覧できるようにしておく。</p> <p>(2) 職員全体が仲間の話しを積極的にし、日々の実践について振り返りや悩み、疑問を出し合い論議をしていく。(悩みや相談ごとなどが話しやすい環境を作っていくことが必要)</p> <p>また、実践のまとめとしてレポートを書き、それをもとに職員で論議する機会を設ける。</p>	<p>を持ち続けられるように、職員同士、刺激し合えるといいのではと思います。</p> <p>また、事業所では初めてのことでありますが、医療的ケアが出来るように第3号研修を受講することができました。</p> <p>研修報告については、これまでもあるように時間をかけて報告、論議が難しいが、少しずつでも、時間の確保が出来るようにしていきます。</p> <p>報告書のファイリングは出来ていないため、今年度中に整理し、閲覧できる状態にします。</p> <p>(2)毎日、夕方に仲間の様子を共有する時間を設けるので、これまでより、その日の振り返りや相談などがしやすくなると思います。</p> <p>また、実践のまとめとしてレポート発表を所内研修のひとつとしておこなった。これまでのかかわりを振り返るとともに、そこから見えてきた仲間の姿や課題など、職員間で論議出来たことは良かったと思います。</p>	<p>第3号研修の受講、そして県へ喀痰吸引等行為事業所登録もおこなない、医療的ケアが実施出来るようになった。</p> <p>研修報告については、これまでもあるように時間をかけて報告、論議が難しかったが、少しでも職員で話しが出来るように所内研修の機会を設けた。論議したことを日々の実践に活かせるようにと思う。</p> <p>報告書のファイリングは出来ていないため、今年度中に整理し、閲覧できる状態にします。</p> <p>(2)毎日、夕方に仲間の様子を共有する時間を設けたことにより、今まで以上に仲間の話しが出来るようになった。また、次の日に支援が繋げていけるように意識する機会にもなった。支援のばらつきがなくなっていくように継続していければと思う。</p> <p>また、実践レポートについては、仲間のこれまでの姿を知ることや今後の支援に繋げていける</p>
--	--	---	---	--

		<p>(3) 報告、連絡、相談を定着させる。 (定着させるための工夫をおこなう。 やり取りはメモで)</p> <p>また、職員のチームワーク力を高め ていくために、職員体制を強化すると ともに、職員一人ひとりが、周りを見 て状況判断が出来る力を身につけ、 日々の実践の充実につなげる。あと、 職員集団として、また職員個人として どれだけの力をつけることが出来たか を職員で振り返ることもしていく。</p>	<p>(3)報連相の定着を目標にこの間、取 組んできた。意識としては以前より定 着してきているが、最後の報告が抜け ていたり、自分勝手な判断でという場 面もまだまだあるように感じられま す。業務の内容を報告までして、それ で完了という意識が持てるように後半 は取組んでいきたいと思えます。</p> <p>職員一人ひとりが周りを見て状況判 断が出来る力をつける。また、職員個 人としてもどれだけの力をつけること が出来たかということについては、ま ず、今年度は活動場所をもう1か所増 やしたことにより、職員の目配り気配 りが強化できる機会と思っていたが、 その状況においても、なかなか意識が 持てていないことが多いと感じます。 体制的には整っているにも関わらず、 バタバタして余裕が無くなっている原 因としては、やはり、周りを見て状況 判断が出来ていないと思えます。</p> <p>あと、正規職員に関しては、職員個</p>	<p>ような話が出来た。このことにつ いても来年度も継続して取組ん でいきたいと思う。</p> <p>(3)定着しつつあるが、まだまだ不 十分な場面もあったと思う。職員 間の意思疎通については、互いに 伝えていることがイコールにな っているかというところの丁寧 さに欠けていた部分もあったと 感じる。</p> <p>また、職員一人ひとりが状況判 断出来る力を身につけるとい うところでは、職員に差があるのが 現状。これについては、職員全体 でどうしていけば力量アップに 繋げられるか話し合っていく必 要があると思う。</p> <p>そして、2020年度は新型コロナ ウイルスの影響で活動場所を2 か所にしたため、より一層、状況 判断が求められることも多かつ た。来年度も当面はこのような現 状が続くと思われるため、今一 度、意識を持って取組んでいく必要 がある。</p>
--	--	--	--	---

			人としての目標、そして課題を明確にして年度後半は取組んでいくこととしています。	あと、正規職員については、職員自身の目標、課題についても取組んでいくとしていたので、来年度も意識しながら取組んでいく必要がある。将来計画を見据える中で、今から出来ることにも取組んでいかなければと思う。
--	--	--	---	--

Ⅲ 公益事業

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 主たる介護者のレスパイトや緊急時の対応のための支援	年間	<p>(1) 主たる介護者のレスパイトや作業所での支援時間帯以外に起こった本人や家族の方の緊急時の対応をすることで障害のある人やその家族の安心した生活が営めるよう日中一時支援事業を行う。</p> <p>(2) 開所曜日、開所時間については、月 火水金の 15:30~18:00（土日については、要相談）とする。</p> <p>(3) 利用についての感想やニーズの聞き取り調査をもとに今後の支援について検討をしていく。</p>	<p>利用回数は多くはないが、その都度、家族の方の要望にこたえながら支援が出来たと思います。</p> <p>支援内容については、仲間が心地よく過ごせるような内容を考えることも出来ていたと思います。</p> <p>昨年度、ニーズ調査をおこなっている中で、調査から見えてくる課題などについても今年度中に明確にし、今後の事業について検討していければと思います。</p>	<p>利用回数は多くはないが、その都度、家族の方からの要望に応えながら支援をおこなってきた。</p> <p>また、利用する仲間がその時間を心地よく過ごせるように、職員も工夫をしてこれたことは良かった。</p> <p>昨年度のニーズ調査の結果については、今後のより良い事業につなげていく必要がある。開所日の相談や緊急時の支援など家族の方が安心できる事業展開を考えていく必要があると感じた。</p>
2 余暇に対する支	年 4回 ~6回	<p>(1) 障害のある方の休日の過ごしを充実させることを目的とし、「はぐくみ良か</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が出来ない状況でし</p>	<p>中間総括でもあったように、新型コロナウイルスの影響で思う</p>

<p>援</p>		<p>余暇支援活動」を年4回～6回の実施を予定。</p> <p>(2) 参加される方が、四季を感じたり、色々な体験ができたり、自分たちが住んでいる滋賀の魅力が発見できる機会、また、ボランティアさんを通じて、人とのふれ合いを感じられるような活動とする。</p> <p>(3) 活動資金作りについては、滋賀県共同募金会のつかいみちを選べる募金にエントリーし、次年度の活動資金の確保に努める。</p>	<p>た。その中で、少しでも活動できるように検討し、今年度に関しては、ボランティアさんの参加はないが、バーベキューとクリスマス&忘年会を少人数で数回、同じ内容で活動実施することとなりました。また、ボランティアさんと仲間との関係も継続できるような活動も検討して実施します。</p> <p>あと、今年度いただいた募金のつかい方と来年度の活動資金についての募金かつどうについては、共同募金会に問い合わせ、取組んでいくこととします。</p>	<p>ような活動が出来なかった。そういった状況の中で何が出来るかを考え活動をおこなってきた。制限がかかる活動ではあったが、参加された仲間の方は嬉しそうな様子で過ごされた。</p> <p>また、ボランティアさんの参加を見合わせていたため、仲間の方も残念に思っておられた。そこで、クリスマスリースを作ってプレゼントする活動をし、ボランティアさんとのつながりを持つことが出来たことは良かった。</p> <p>あと、滋賀県共同募金会よりいただいたつかいみちを選べる募金は、新型コロナウイルスの影響ですべて使いきることが出来なかった。そのことについては、滋賀県共同募金会の方へ相談もさせてもらい、来年度の活動資金として使わせていただけることを確認した。今年度の1月～3月のつかいみちを選べる募金活動への参加も来年度の活動資金のために取組むこととした。</p>
----------	--	---	--	--

IV 将来計画に関連する事業

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 障害の重い人たちの進路先の保障や住まいの場の確保を目的とした事業についての検討（継続）	年間	<p>(1) 現在、地域の養護学校に通われている児童・生徒の進路先の保障や主たる介護者の高齢化に伴う本人の生活の場の確保といった課題を解決するために、法人の将来計画として「生活介護事業所の創設」や「ホームの創設」といった新たな事業展開を検討する。</p> <p>(2) 新たな事業展開を検討するにあたっては、外部の方にも参画いただいている将来計画実現委員会と連携しながら進める。</p> <p>(3) 地域課題として関係機関と課題について共有することが大事であり、区市との協議や圏域や市の自立支援協議会に積極的に参加し、情報の共有に努める。</p>	<p>今年度は、将来計画の取り組みにおいても、新型コロナウイルス感染症の流行の影響が出ております。将来計画実現委員会においては、感染症予防の観点から、全体会議、各部会の開催を9月まで中止としていました。10月からは、状況を見ながら各部会を開催することとしました。あと、今年度は、利用者宿泊体験についても中止とすることにしました。</p> <p>また、「Iはじめに」にも書きましたが、国庫補助申請は、残念ながら不採択となってしまいました。このことを受けて、9月に次回の国庫補助申請の協議書を県へ提出しています。それに先立てて、市との連携も重要になることから、8月には市長とも面談をし、不採択になった報告とこの事業の重要性を共有したうえで次回に向けて市としても積極的に取り組んでいただくことを確認しました。</p>	<p>中間総括でも述べましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、将来計画実現委員会の部会等の開催も計画通りにはできませんでした。（全体会議0回、各部会1回の開催）そのような中ではありましたが、事務局ニュースを発行して情報共有に努めたり、各部会でアンケートを行いニーズ把握を行ったりと工夫しながら取り組むことができました。</p> <p>また、グループホーム計画に関しましては、国庫補助申請を行いました。内示の時期が6月ですので、それまでははっきりとしたことは分かりませんが、地元自治会の説明会を3月に行ったりと少しでも前へ進めるよう努力してまいりました。</p> <p>あと、「生活介護一本化」の</p>
2 国庫補助申請に向けての取り組み（新	年間	<p>(1) 国庫補助申請をするために、行政や関係機関と協働して取り組みを進める。</p>		

<p>規)</p> <p>3 資金作りの 取り組み（継 続）</p>	<p>年 間</p>	<p>(1) 新たな事業実施に必要な自 己資金について、後援会とも連携し ながら積極的に取り組む。</p>	<p>そのような中ではありますが、6月 には設計業者の入札をプロポーザル方 式で行い、無事に決定することができ ました。このことにより、今後の開発 許可申請等、少しずつではありますが 確実に進めていけたらと考えておりま す。</p>	<p>検討につきましては、今おられ る利用者のニーズもあり、また、 守山市との協議の中でも、 そのことの課題解決について 見解の相違も明らかになる中 で再検討となっていました。</p>
<p>4 グループホ ーム開設のため の人材育成の取 り組み（継続）</p>	<p>年 回</p>	<p>(1) 将来グループホームを開設する 予定であることを踏まえ、人材育成を 目的とした利用者宿泊体験事業を実 施する。</p>	<p>あと、「生活介護事業所の創設」とい ったことに関しては、資金面等の課題 もある中で現実的に当初計画通りには 進まない状況にもあります。そのよう な中で、当法人として何ができるのか を模索する中で「生活介護事業の一本 化」の検討を理事会として行ってきま した。就労継続支援B型事業を廃止し、 生活介護一本にすることで定員が20 名になり、受け入れも可能となるので すが、空間の手狭さやB型利用者の生 活介護への移行等の検討課題もあり、 もう少し時間をかけて検討を続ける必 要があります。</p>	<p>3月の理事会においても、今後 に向けての検討が必要といっ たご意見もある中で2021年度 引き続き検討していく必要が あるかと思えます。</p> <p>最後にグループホーム開設 に向けた人材育成については、 ここ数年継続して行っていま す。くわえて、事業開始時の人 材確保について、他の法人でも 苦労していると聞きますので、 今後どう取り組むかについて も検討が必要かと思えます。</p>

V 地域との連携や地域貢献

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 地域の方々に応援していただくための取り組み（継続）	年間	<p>(1) アルミ缶・段ボール回収に対する協力の周知</p> <p>(2) 事業所の活動に対するボランティアの受け入れ</p> <p>(3) 後援会とも連携して「はぐくみ市」を開催（11月）</p> <p>(4) 後援会とも連携して「はぐくみ映画会」を開催（11月）</p> <p>(5) きょうされんの署名活動などを通じて作業所や障害のある人たちのことを知っていただく。</p>	<p>このことについても、新型コロナウイルス感染症の流行の影響が出ています。ボランティアの受け入れについては、作業所の活動やはぐくみ良か余暇支援活動においては、今年度、ボランティアの参加はなしで行うことになりました。（さんばつボランティアについては、実施しています。）</p> <p>また、「はぐくみまつり」「はぐくみ市」「はぐくみ映画会」といった後援会行事につきましても、後援会として今年度中止することを決定されました。</p>	<p>結局、新型コロナウイルス感染症の影響により、「はぐくみまつり」「はぐくみ市」「はぐくみ映画会」の行事については中止となりました。事業所の活動に対するボランティアの受け入れについても、1年を通じて参加いただけない状況が続いています。コロナ禍においても、地域の方々とつながりをとということで取り組んでまいりました。所前販売などを通じて、少しでも交流できたことは良かったと感じています。</p>
2 地域貢献のための取り組み（継続）	年間	<p>(1) 地域の方々との交流を目的に後援会とも連携して「はぐくみまつり」を開催（8月）</p>	<p>そのような中ではございますが、地域の方々とのつながりを切ることをないようにしなくてはいけないと考えております。就労支援事業の収入が落ちていることを理由に、8月から月2回作業所の外で自主製品の販売を行うようになりました。近所のお家にチラシをまいたりして、一人でも多くの方々に来ていただきたいと取組んでいます。が、これまで播磨田町の方々とのお付</p>	<p>あと、アルミ缶・段ボール回収への協力についても、後援会だよりなどで周知させていただき回収量も増えてきています。</p> <p>今後もしばらくは新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、2021年度も地域の</p>

			き合いもあり、用意したラスクやケーキも完売する日も少なくありません。約 30 年地域の方々といろんな機会であらう交流してきたからこそなのかなとうれしく思っております。	方々につながるよう取り組んでまいります。
--	--	--	---	----------------------

【2020 年度事業実績】

○ 年間開所日数及び 1 日平均利用者数

	開所日数	平均利用者数
生活介護	258 日	11.6 人
就労継続支援 B 型	258 日	3.5 人
合 計		15.1 人

- ・上記の表には、通所自粛中の在宅支援を出席とみなした数。
- ・通所自粛期間（2020.4.21～2020.6.12）における生活介護の実質的な平均利用者数は 6.9 人、就労継続支援 B 型の実質的な平均利用者数は、0.5 人だった。

○ 職員体制（2021 年 3 月末時点）

生活介護		就労継続支援 B 型	
管理者	1 名（内兼務 1 名）	管理者	1 名（内兼務 1 名）
サービス管理責任者	1 名（内兼務 1 名）	サービス管理責任者	1 名（内兼務 1 名）
生活支援員	11 名（内兼務 2 名）	職業指導員	1 名
看護職員	2 名	生活支援員	1 名（内兼務 1 名）
調理員	1 名（内兼務 1 名）	調理員	1 名（内兼務 1 名）
事務員	2 名（内兼務 2 名）	事務員	2 名（内兼務 2 名）

○ 入退所者数

	定員	入所者数	退所者数	現員（3 月末）	昨年比
生活介護	10	0	0	13	±0
就労継続支援 B 型	10	0	0	5	±0
合 計	20	0	0	18	±0

○ 事故報告について

活動中の大怪我（病院搬送）	0 件	±0	
活動中の怪我（軽微なもの）	13 件	+1	転倒の際の打撲、擦り傷等
活動中の車両事故（物損）	2 件	+1	シフトレバーバックになっていたことに気づかず電柱に接触、ドア開閉時にもう一台の車両に接触
活動中の車両事故（人身）	0 件	±0	
送迎中の車両事故（物損）	0 件	-1	
送迎中の車両事故（人身）	0 件	±0	
火事・災害等による怪我	0 件	±0	
食中毒の発生	0 件	±0	
その他①	4 件	+4	連絡帳の記入ミス、連絡帳渡し忘れ、仲間の持ち物違う車両への積み込み、仲間が一人でリーフマンションへ戻ろうと外へ出たことに職員気づかず
その他②	1 件		自動通報装置の操作ミスにより、消防が実際に来る
その他③	2 件		仲間の緊急連絡先カードを職員持ち帰る、個別支援計画モニタリングシート破棄
その他④	3 件		24 時間車両の車検証紛失、帰る前の車両移動時、フェンスに接触、職員の車両サイドブレーキ引き忘れにより、前方の車両に接触
合 計	25 件	+5	

【今後に向けて】・活動中の仲間の見守り、職員間の連携の強化。

- ・車両事故については、運転者の意識強化。また添乗職員も安全確認への意識を持つ。
- ・運行前点検の実施。
- ・個人情報の取り扱いの意識強化。
- ・業務内容についての確認の徹底。

○ 苦情解決について

（苦情受付件数と内容）

身体介助（衣服）に関するもの	0件	-2	
身体の異常（怪我）に関するもの	1件	±0	引っ掻き傷がある。
介助に関するもの	3件	±0	職員とのやり取りについて、伝えても伝わらない、移乗時の介助。上履きのまま帰ってきた
施設環境に関するもの	0件	±0	
活動内容に関するもの	4件	+2	公園掃除の場所間違い、リサイクル回収先の忘れ
利用者の持ち物に関するもの	2件	±0	忘れ物
利用者の処遇に関するもの	2件	+2	送迎の時間遅れ
運転に関するもの	0件	±0	
家族の方に関するもの	2件	±0	連絡帳の内容の確認、見守り不足。
地域の方からに関するもの	0件	-1	
合 計	14件	+3	

【今後に向けて】・仲間の見守りの強化。

- ・担当職員の確認意識の強化。
- ・業務内容について確認の徹底。

○ 虐待防止対応について

（虐待受付件数と対応）

	件数		内、虐待防止センター等への通報件数
所内における身体的虐待	0件	±0	0件
所内におけるネグレクト	0件	±0	0件
所内における心理的虐待	0件	±0	0件
所内における性的虐待	0件	±0	0件
所内における経済的虐待	0件	±0	0件
合 計	0件	±0	0件

【今後に向けて】・虐待防止、人権への意識を常に持つ取組みをおこなう。

- ・年2回、所内研修をおこない、虐待チェックリストなど活用して日々を振り返り虐待防止への意識を強化。